

はじめに

国が示した「健康日本21(第二次)」では、生活習慣の多様化や疾病構造の変化が進む中で、子どもから高齢者までがライフステージに応じた健康づくりを行うことを掲げており、下関市でも、健康づくり計画「ふくふく健康21(第二次)」において、「いのちを考える」ことや、「生きる力」をキーワードに、青壮年期に対する健康づくりのアプローチや心の健康づくりに向けた取組などを推進してきました。

一方で、令和2年に新型コロナウイルス感染症が発生すると、感染症対策として「新しい生活様式」が提唱され、人的交流の制限とともに生活習慣の多様化の傾向は、ますます顕著なものとなっていきました。

そして、令和5年に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されると、行事など屋内外の活動が再開されましたが、私たちの日常生活はコロナ禍前とは変化しており、健康づくりに関しましても、時代に呼応した新しい提案が必要となってまいりました。

そこで下関市では、今後12年間の下関市の健康づくりにおける施策の方向性を示すために、「ふくふく健康21(第三次)」を策定いたしました。この計画書は、事前に行った市民アンケート調査の分析を基に、目指す姿となる、「生涯を通じて、人と人がつながり・支え合い、自分らしく健やかに暮らす」ための基本施策などを、下関市健康づくり推進協議会をはじめ、市民の皆様のご意見をいただきながら、まとめたものです。コロナ禍で変化した社会の「つながり」や、「支え合い」の再構築を図りながら自然に健康になれる環境づくりの支援を進める一方で、コロナ禍により加速したデジタル技術を活用した取組にも着目し、多様化する生活に即した健康づくりの整備にも取り組んでいく内容となっております。

こうした新しい取組に加えて、第一次、第二次計画時に培われてきた財産を融合し、私は、下関ならではの計画書が完成したと実感しております。この計画に基づき、市民の皆様が自らの「健康」について考え、主体的な健康づくりを実践することで、人生が豊かなものとなり、本計画の目指す姿の達成や、いつまでも下関に住み続けたいという気運の醸成につながることを節に願っております。

最後に、この計画の策定にあたり、市民アンケート調査やパブリックコメントにご協力いただきました多くの市民の皆様や、大変熱心にご協議いただきました下関市健康づくり推進協議会の委員の皆様は、厚くお礼申し上げます。

令和6(2024)年3月

下関市長 前田 晋太郎

